

立教大学教授の栗田哲男先生が、八月十一日に急逝されました。

★

新聞の記事を見たとき、一瞬、同姓同名かと思つてしましました。ご逝去直前の会議で、当機構から出版予定の判決例の研究につき、具体的な執筆方針のご指導をお願いしたばかりだったのです。実際、先生の恩師である東京大学の平井宣雄教授によれば、おなくなりになる一日前まで、大学の研究室で、ふつうに勉強しておられたそうです。

★

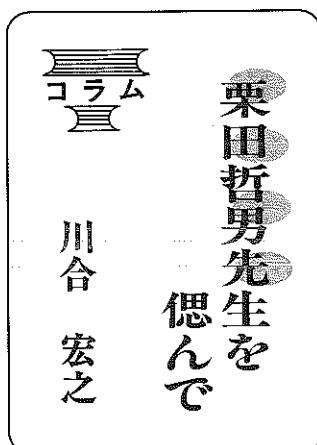
栗田先生には、機構の業務全般について、いつもいろいろ教えていただいておりました。が、中でもRETIOの読者各位にとつて関係が深いのは、これまでに三冊出版したベストセラー「不動産取引紛争事例集」でしょう。これらの事例集の総論部分は、ほとんどが先生のご直筆です。また、お忙しいところを無理にお願いして、昨年の六月十八日、「判例から見た業者責任の動向」と題して、ご講演をい

ただきました。宅建業者は専門家として、一般人にない権限を与えられている代わりに、責任も大きいのだという趣旨を、平易なことばで明快に説明しておられたのを、ご記憶の読者も多いことでしょう。

★

先生の学問的な業績の全貌については、

「時の経過とともに瑕疵の程度が薄れるようなものは、ほんとうに瑕疵なのだろうか」といつておられました。いわれてみればそのとおりで、自殺のあつた住宅に瑕疵があるとしても、その瑕疵は、雨漏りや地盤沈下などとは、全く異質なものであるに違いありません。



もとより私などが窺い知ることはできませんが、お話を承りながら、たいへん頭の柔軟な方だということは、常々感じておりました。

ほんとうに惜しい学者を失つたものだと思います。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

★
(専務理事)